

「子ども未来基金」活用アンケート

はじめに

本市では今後の市政運営の参考とするため、広聴事業を実施しております。

平成28～29年度では、市長と市民の方が直接意見交換を行う「未来づくり懇談会」を全行政区において開催し、1,100名を超える皆様にご参加をいただきました。

また、平成30年度は、高校生や子育て世代、女性など一定の世代などに特化し、その世代などから見た本市の課題などについて直接意見交換を行う「やいた未来ミーティング」を実施しており、平成31年3月26日（火）には、矢板市PTA連絡協議会（小中学校のみ）の会員の皆さまと、子育て世代から見た本市の子育て・仕事などについて意見交換を実施いたします。

アンケート内容

今回のアンケートでは、3月26日の意見交換の1つとして「子ども未来基金」の活用について、やいた未来ミーティングに参加される会長以外にも、より多くのご意見を集めたいとの考えから、各学校の運営委員等の皆さまにご質問させていただくものです。

○「子ども未来基金」とは・・・

既に新聞報道でもありますとおり、本市では「子ども医療費」の現物給付を実施しない代わりとして、中学3年生まで医療費の現物給付を実施した場合に想定される費用の増加分を基金として積み立てし、子ども達への新たなサービス提供や先進的な子育て支援施策など柔軟に活用するため「子ども未来基金」を制定します。

※ 現物給付とは、医療サービスを現物（お金ではなく品物、方法）で支給する方式で、治療にかかった費用は市役所から医療機関に直接支払う方式です。

対して矢板市で実施している子ども医療費助成は償還払い方式と呼ばれるもので、医療機関の窓口で治療にかかった費用を受診した方が支払い、その領収書を市役所の窓口で申請し、受診した方にその費用相当額をお支払いする方式です。

集計結果の利用について

ご回答いただきましたアンケートについては、集計結果を3月26日開催の「やいた未来ミーティング」で利用させていただきます。

アンケート回答期限

平成31年3月8日（金）までに同封の返信用封筒でご投函ください。

（裏面に続く）

矢板市が現物給付の年齢拡大をしない理由

栃木県内の「子ども医療費制度」の取り組み状況は、平成30年4月時点で「未就学児までの現物給付」としているのは、矢板市、大田原市、那須塩原市、足利市、益子町、茂木町の6市町でありましたが、矢板市、大田原市を除く4市町は対象年齢の引き上げ又は引き上げの表明をしている状況にあります。

○矢板市で現物給付を実施した場合

矢板市の近隣で現物給付の対象年齢の拡大している「子ども医療費」の伸び率は、実施前の年度と比較して、小学生で1.6倍、中高生で1.92倍と医療費が増加しました。

その伸び率を基に試算すると、中学3年生まで拡大した場合では年間4,500万円、高校3年生までの拡大では年間6,200万円の予算が増加する結果となりました。

中学3年生まで拡大した場合の4,500万円を、市内の児童・生徒の数で按分すると、一人当たり約2万円の医療費が増加することとなります。

○現物給付にすると、なぜ医療費は増加するのか？

現物給付になると、お財布を持たなくても受診できるメリットがあります。

しかし、軽傷でも安易に医療機関を受診する「医療のコンビニ化」に拍車がかかり、医療費の増加が問題視されています。

○こんなデメリットも・・・

・国庫補助金、県補助金の減額

国では、医療機関への受診者増加と医療費の増加を助長するとして、現物給付をする市町村に対して国民健康保険の国庫負担分を減額するペナルティ（罰則）が科される仕組みとなっています。また、県では現物給付する市町村に対して、小学生対象の補助金を2分の1から4分の1に減額する措置がとられているため、医療費にかかる市の負担が増加してしまいます。

・国民健康保険税の負担増

国民健康保険税は、市町村単位で保険税の率を設定して運営しています。国民健康保険を利用されている方の医療費が増加すると、国民健康保険制度の運営にかかる費用も増加することから、税率の引き上げなどの影響が懸念されます。

○デメリットがあるのに、なぜ現物給付を拡大しているのか

市町村の医療費助成は、もともと乳幼児が対象で、経済的な理由で子どもが亡くなる事態を防ぐのが目的であった。今は人口減少に危機感を抱く自治体が住民を呼び込むための手段になっているのが実態だ。（中略）近隣自治体との競争上、やむなく医療費を助成する市町村もあるとみられ、人口減で厳しさを増す自治体財政が一段と悪化する懸念もある。（平成30年6月7日付 日本経済新聞社）

「子ども未来基金」活用アンケート

このアンケートは、「子ども未来基金」を活用して事業を行う場合に、子育て世代の皆さんから見た「こんな活用をしては？」と思うことをお聞きするアンケートです。

アンケートの集計結果は、3月26日開催の「やいた未来ミーティング」の意見交換で利用させていただきます。

1 お子さんの人数は？（人数を記入してください）

- ・未就学児・・・・・・・・・・・・・・・・（ 人）
- ・小学生・・・・・・・・・・・・・・・・（ 人）
- ・中学生・・・・・・・・・・・・・・・・（ 人） 合計（ 人）
- ・高校生・・・・・・・・・・・・・・・・（ 人）
- ・大学生・社会人・・・・・・・・・・（ 人）

2 保護者の方の年代は？（該当項目に○印をつけてください）

- ・20代・・・・・・・・・・・・・・・・（ 父 ・ 母 ）
- ・30代・・・・・・・・・・・・・・・・（ 父 ・ 母 ）
- ・40代・・・・・・・・・・・・・・・・（ 父 ・ 母 ）
- ・50代・・・・・・・・・・・・・・・・（ 父 ・ 母 ）
- ・60代以上・・・・・・・・・・・・・（ 父 ・ 母 ）

3 保護者の方の就業状況は？（該当項目に○印をつけてください）

- ・フルタイムで仕事をしている・・・（ 父 ・ 母 ）
- ・短時間で仕事をしている・・・・・・（ 父 ・ 母 ）
- ・働いていない・・・・・・・・・・・・・（ 父 ・ 母 ）

4 基金を主にどの年代で活用してほしいですか。（1つ選んで○印をつけてください）

- ・妊娠～出産・・・・・・・・・・・・・・・・（ ）
- ・未就学児～小学生・・・・・・・・・・・・（ ）
- ・中学生～高校生・・・・・・・・・・・・・・（ ）

5 基金を主にどんな分野に活用してほしいですか。（1つ選んで○印をつけてください）

- ・健康、医療・・・・・・・・・・・・・・・・（ ）
- ・保育サービス・・・・・・・・・・・・・・（ ）
- ・教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（ ）
- ・子ども関連の施設整備・・・・・・・・（ ）
- ・その他（ ）

（裏面に続く）

6 基金を主にどんな活用をしてほしいですか。(3つ選んで○印をつけてください)

- ・ 妊婦の検査（甲状腺検査、HTLV-1抗体検査、歯科検診など）・・・（ ）
- ・ 不妊治療費の助成拡大・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（ ）
- ・ 出産祝い金制度（拡充）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（ ）
- ・ 新生児～幼児の検査（視力、聴力、先天性代謝異常等など）・・・（ ）
- ・ 予防接種の助成拡充（インフルエンザ、ロタ、おたふくなど）・・・（ ）
- ・ 小中学校の入学祝い金・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（ ）
- ・ 小中学校入学時の学用品の配付・・・・・・・・・・・・・・・・・・（ ）
- ・ 小中学校の給食費の助成・・・・・・・・・・・・・・・・・・（ ）
- ・ 小中学校の学用品購入助成・・・・・・・・・・・・・・・・・・（ ）
- ・ 学校施設の整備や学校備品等の購入・・・・・・・・・・（ ）
- ・ 学校で実施する体験活動への助成・・・・・・・・・・（ ）
- ・ 子どもの遊び場や子育て世代が利用する施設の整備・・・・（ ）
- ・ 学習スペースの整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・（ ）
- ・ 通学費用の助成・・・・・・・・・・・・・・・・・・（ ）
- ・ 子どもの活動団体への助成・・・・・・・・・・（ ）
- ・ その他（
（
（

7 基金に係わらず、市に対するご要望などを、ご自由にお書きください。

アンケートは以上となります。平成31年3月8日（金）までに同封の返信用封筒でご投函ください。ご協力ありがとうございました。